採取を始まる迄の日數　十五日
同　繼續日數　五日
一坪の苗の植込量　種二合
一坪の收益　約四圓位

一三、大根芽

適溫　十六度乃至十八度
光線の要否　不要
採取を始まる迄の日數　十二日
同　繼續日數　一回
一坪に要する種量　時價による

第四篇　促成栽培各論

第一　胡瓜

(一) 胡瓜栽培總說

胡瓜は蔓性の一年草本で、其原產は印度とのことである。我國に何時頃から傳はつたかは分らないが、とに角促成栽培品としてはこの胡瓜位需要の多いものはない。たしかに促成栽培の王であらふ。して其利益も比較的に多いのであるから促成栽培をする人の必ず閑却すべからざるもので、早春の候、割烹界には必要缺くべからざるものとされて珍重されて居る品である。

(二) 種類

種類は甚た多い、其產地、色澤、用途、形狀、早晩により種々の名稱を附してある。要するに、栽培古く、且つ用途の廣きものほど其品種の多きもので、これ

蓋し栽培に多くの苦心と努力との伴ひたる證據である。

其何れにしても、促成栽培に供すべきものは必須的條件として、

一、早生種なること

二、莖幹共に短矮なること

三、結瓢の多量なるもの

四、形態の整正なるもの

五、樹性強健なるもの

を選ばなくてはならない。然しこの條件全部に適合したものは先以てないから、これに近いものを選ぶがよい。胡瓜を瓢果の色澤の上から分類すると、白瓢、綠瓢の二種となるが、この白瓢中には頗る豐產で且つ栽培に容易なものがある。けれども、我國の市場では餘りこれを嬉ばない、つまり需要が少くないのである。これに綠瓢は稍々白瓢より栽培困難であるが、我國の市場では頗る歡迎するもの

であるから、これを選ぶべきである。綠瓢はこれを分ちて、普通種、節成種の二種とする。普通種は瓢果の形態頗る偉大で肉厚く、種子少く品質優等なるものが多いけれども、草性長大であつて、栽培日數も多く費し、且つ其收獲も少くないから、露地栽培としては歡迎すべきものであるが、促成栽培用としては不適當である故に、節成種を選べがよいのである。

節成種を分ちて更らに短節成、長節成の二つとする、短節成は矮性で、瓢果は大きくないが數量が多く栽培日數も又短かいのである。

次に促成栽培用として優良なる二三の種類を掲げて參考に供しよう。

一、白俵節成種　埼玉縣で改良されて世に出たものである、瓢果は綠白色、肉厚く種子少く、果は紡錘形をなした、豐產の良種である。

二、大阪節成種　大阪天王寺附近で多く栽培さるゝ種類で蔓は短矮で結瓢多く一節に二個以上結果することさへある早生なる豐產種であるけれども其形短

大にして種子を多く藏する缺點がある。この種は所詮關西向きの種類であつて東京の市場では其形態の上から、餘り歡迎されぬのである。

三、刈取節成種　埼玉縣の改良種である。蔓は短矮でないが結蓏は紡錘狀をなし、形態大で肉果の厚い良種であるが栽培に稍困難である。

四、早生節成種　東京附近に多く栽培せらるゝもので、形態やゝ大阪節成に似た、性質强健な豐產なる早生種である。

五、三枚目節成種　發芽後本葉三枚を出すと、結果するといふので名附けたものだ相だが早生節成種よりも却て遲い樣である。樹性强健であるが餘り矮性ではない。しかし結蓏の整正した豐產の良種である。

六、聖護院節成種　京都府下聖護院地方で多く栽培せらるゝ種類であつて關西胡瓜界の代表者とも云ふべきものである。果形紡錘狀を呈し比較的大にして性健强なる豐產種である。

この外に種々の種類があるけれども、促成栽培用としては前記の數種が最も適してゐる。たゞ栽培にあたりて注意すべきは其需要地の嗜好に適せるや否やであるから栽培者は深くこれに注意するがよい。詳細は總論の條で悉知の筈である。

(三) 栽培法

胡瓜の莖葉中には多量の水分を含有するものである。故に餘りに高溫に過ぎると徒長、軟弱に陷るものであるから、高溫に過ぎぬ樣にするがよい。總べて何作物でも適溫以上の高溫に上るはよくないことである。高溫に過ぎると、生育速かで栽培日數は少くても濟むが、しかし熟練したものでないと往々失敗を招くものである。まづ胡瓜の適溫としては攝氏二十一二度である。

溫度と共に注意すべきは濕度である。濕度の適不適は、直ちに胡瓜に徒長、軟弱或は、枯死などの運命を齎すものであるから、溫度と共に過濕又は乾燥に陷らぬ樣注意するがよい。

既に總論の條に述べた樣に溫床の据付けが終り、釀熱物を踏み込んだなら、これに播種するのであるが、この播種の方法には二種ある。一は條播、一は撒播であるが、進歩せる方法としては條播である。これ苗育成中の管理にも、又苗其物の生育上にも條播の方遙に優るからである。

撒播の場合は叮嚀に撒布して、これに五六分の覆土をなすのであるが、詳細は條播と同じくするがよい。其播量は一坪約一合前後とするがよい。尤も播種量は種子の良否によりて異にするから一概にこれを云ふことは出來ぬ。

條播は二寸距離位に小溝を穿ち（竹篦を以て殖土を押し付けるとよい）これに播種するもので一坪大凡七八勺である。播種後は指を以て靜かに押し付けて置くがよい。覆土は輕鬆土、砂質壤土等であつたなら、七八分位、乾燥なる塊土であつたなら四五分位が適度である。覆土の標準としては種子の厚さの約二倍がよいとされてゐる。播種後灌水して覆土した後は障子を密閉して、床内溫度の下降と、

濕度の放散を防止すべきである。

かくすると、數日にして發芽を始めるから、發芽前後二三日經つて本葉の現はるゝに至ると第一回の移植を行ふのである。善は急けで第一回の移植は早い方がよいといはれてゐる。

移植は叮嚀に行ふがよい。さもないと、根部を損傷して容易に恢復することが出來なくなるものである。まづ豫め移植の場所に穴を穿ち置き、移植鏝を以て土と共に、叮嚀に掘上げ用意の場所に根を充分に擴げる樣にして、植附けるのである、移植が終れば、葭簀等を以て日覆をなし、根の活氣を計り時日の經過に伴ひ葭簀を段々に用ひぬ樣にするのである。

第一回の移植後十日乃至二週間を經過すると、本葉は全く開展し、二枚目の葉が將に開かんとするからこの時第二回の移植を行ふのである。この時に於ける距離は二寸平方に一株が適當である。更らに十日乃至二週間を經過し本葉二三枚を

開展するころ第三回の移植を行ふものである。

既に本葉四五枚を着ける頃になると定植の適期に入つたものであるから、本床に移植（この場合の移植を定植又は本植と稱するのである）するのである。この期間は大抵播種後約五十日位である。定植をするに、苗床より本床の方が瘠薄で地であれば稍々遲く、苗床より肥沃であれば早く定植するがよい。

定植すべき床地に於ては總論の條に於て詳述して置いたから、こゝには消略することゝするが其定植數は未だ述べて置かないから次に記すとしよう。但し定植數は時期及び作付すべき種類によつて多少の差のあるのであることを承知して貰ひたい。

○品種名

白俵節成　一列十本四列四十本（一框に對して）

大阪節成　一列十二本四列四十八本（同）

三月以前に採收すべきもの

刈羽節成　一列十本四列四十本（同）

早生節成　一列十二本四列四十八本（同）

三枚目節成　同（同）

聖護院節成　同（同）

庄内節成　一列十五本四列六十本（同）

札幌節成　同（同）

魯西亞節成　同（同）

長節成　一列十本四列四十本（同）

早生胡瓜　一列十二本四列四十八本（同）

○品種名

三月以降に採收すべきもの

白俵節成　一列九本四列三十六本（一框に對し）

大阪節成　一列十本四列四十本（同）

刈羽節成	一列九本四列三十六本	（一框に對し）
早生節成	一列十本四列四十本	（同）
三枚目節成	同	（同）
聖護院節成	同	（同）
庄内節成	一列十二本四列四十八本	（同）
札幌節成	同	（同）
魯西亞節成	同	（同）
長節成	一列九本四列三十六本	（同）
早生胡瓜	一列十本四列四十本	（同）

定植後の注意は苗床に在る時と同樣、溫度、濕度の二點であるが、其詳細は既に總論の條下に述べた通りであるから、參照するがよい。

次ぎには支柱を立つることであるが、これには二種ある一つは一樹に對し一本

の竹を立てゝ支柱となす法で一つは横に二三段位に針金を通しこれに纏繞せしめる法である。其二者何れが優れりやといふと、著者は前者を取るのである。次に其方法を述べよう。

前者は大抵竹の枝を用ふるものであるが、葭の供給自由なる處は葭を代用としてもよい。否却つて葭の方が軟かでよいのである。支柱を立てたなら、最も軟らかに輕く結縛するのである。固く結び付けると、其部分に縊れ目が出來て發育及び收穫に影響するものであるから、注意するがよい。總べて、支柱を立て結縛を行ふのは、日中高溫の時に於てするがよい。それでないと、胡瓜は多量の水分を含有して居るものであるから、往々挫折することの有る故に、其の軟かになつた日中高溫の水分少なき時がよいのである。

後者は兩端に支柱を立て支柱と支柱との間に二三段の針金を通して、これに纏繞せしめる法であるが、この法は餘り結構でない。たゝ多くの材料を用せずに濟

むだけの利益で胡瓜の爲めには利益がないのであるから、なるべくこの法によらぬがよいのである。

又、茨城縣結城郡飯沼村菅原村等では、この支柱を、葭を碁盤目に縛つて立てゝゐる。これは其結果頗るよい樣であるから、かゝる法を試むるもよいことであらう。

(四) 採收法

播種後九十日前後を經過すると結蔵し、蔵果の三寸前後に生長せるを見計つて採收するのである。促成品は前にも述べた通り充分に成熟したものは却つて歡迎されないものであるから、幼稚なる蔵果を採收して市場に販出するがよいのである。

それから採收の方法であるが、採取は、朝又は、午後にするがよい。日中高溫の時にすると、胡瓜の爲めにも、よくないし、蔵果の品質も、朝のものに比して

優等でないのである、又花胡瓜と稱し花の附いたまゝ販出する場合もある大抵は花の凋んでまだ離れずにゐる時がよいのである。

販出の方法は最初のものは一本一座と稱して、七八寸位に葉を切つて清潔にしたものを蓙に編み（中一ヶ所）其中に入れて前後を結び市場に出すのである。それより順次二本、三本と同座せしめ販出盛んなる時となればかゝる手數は除いて一度に多數を箱詰等となして販出するがよい。

(五) 採種法

種子はよく充實したもので、灰黃白色を呈したものがよいのであつて暗灰色を呈したものはよくないのである。兎に角、胡瓜の種子は採取上に多大の注意を要し、且つ優良なる種子は澤山採取出來るもので無から、誇大の言を振り蒔いて廣告する奸計的の種苗店などの種子は先づ以て信用できるものでないのである。故に、自分で採取するがよい。もし自家で採取することが出來ないなら、最も信用

ある種苗店を選んで購入するがよい。

採種の方法は、其種類特有の樹姿、樹勢を有するものを選定し、其附近には、異種類のものを近かずけぬ樣になし、最も早く結實したる株の中の二番なりのうちで、最も形狀の正しい、早時期に生成したものを選び、それ以後に結果したものは、開花すれば毎朝、雌花を摘み取り採種用の蔨果に充分の營養分を保有せしめるのである。そして色澤が黄變し、肉が黄色に軟かくなつたら、蔓と共に取り、暗所に置いて後熟作用をさせるのである。充分に後熟したなら、水洗をなし、輕くして浮いた種子は除去し、重く沈んだもののみを、陰乾しとなし、又其内から暗色のものを除去して保存するのである。

(六) 收入計算

收支計算は種々の事情よりして、一定することは出來ないけれども、大體左記の如き結果あるものと見做したなら、大差ないことであらう。

第一回收穫　(二月以前に採取する場合)

收量　二百六十五個

價格　一個金七錢の割

第二回收穫　(三月以前に採取する場合)

收量　三百二十個

第三回收穫　(四月以前に採取する場合)

收量　三百七十個

價格　一個金拾貳錢の割

平均

附言第二回收穫の價格は第一回、第二回の價格の合計の二分の一とす。

この平均によつて計算するに

一框に對する收支計算　(一坪三分の一)

一金四拾四圓四十錢　總收入金
一金拾四圓貳拾五錢　總支出金

内譯

一金四圓五拾五錢　框代壹年の損耗
一金七圓貳拾錢　人夫賃(十二人分一人分六十錢の割)
一金貳圓五拾錢　荷造費及び運賃其他諸雜費

差引金參拾圓拾五錢也　總純益金

これは第三回の計算であつて、最も價格の高潮せる時のものであるから特に其利益は多額に上つて居るのであるが、これは本年度、皇太子殿下御成年式、東京市制施行三十年紀念祭、奠都五十年祭等のあつた爲めに特別なる奔騰をした結果でもあるから、これを以て毎年の例とすることは出來ないが、しかし物價は今後格別下落する樣なこともあるまいから、大なる相違はないことであらう。

兎に角この計算によつて見るに、促成栽培は從來の如く早きを尙ぶものでない。市場の景氣につれるものであることは分明せること丶思ふ。故に實行に附ては、前述の如く、吳々も市場の狀況を明らかに知るを要するものである。

第二　茄子栽培法

(一)　茄子栽培總說

茄子は胡瓜と同じく我國の瓜類中、用途並に需要の甚だ多きもので其收穫量は遙に胡瓜に優つて居る。斯の如く有用なる蔬菜であつて其促成品も胡瓜と同じく世人の珍重するものであるから、これが栽培者も、また多くの利益を收めつ丶あるが、栽培上一つの難關を有して居ることが缺點である。其性質は胡瓜に比して、甚だ强健であるけれども、この困難の爲めに、相當の技倆を要するのである。其難關とは卽ち

一、顆實の着色に強き光線を要すること。
二、生長に甚だ高溫度を要すること。
三、生育期間の甚だ永きこと。

この三つの缺點の爲めに利益は胡瓜よりも多いのであるが、支出又多くして、最後の計算には、胡瓜に及ばざること丶なるのである。所謂、五十露盤調子のよいといふことになる。併し決して他の作物に比して利益が薄いとは云はれないのである。（收支計算參照）

元來、促成栽培といふと一も二もなく、一二月の嚴寒の候にのみ販出すべきものと心得て居たので、特殊の技倆と、多くの釀熱材料とを要して支出に多くの費用を要したのであるが、これは甚だ誤りである。總論の條にも述べて置いた通り茄子の促成品が市場に大なる歡迎を受けるのは一二月の頃ではなく三月より四五月にかけての事であるから、嚴寒の候は幼苗として生育すべきものであつて苗床

の溫度が下降して、發育を害する樣であつたら、直ちに高溫度の他の苗床に移すことが出來るのであるから、左程に困難を感ずることはないのである。

而して二月中旬以降、床溫漸次下降せんとする頃は丁度外界の溫度が次第に上昇しつ丶あるから、床溫も再び上昇して、比較的有利なる位置となり、順次陽光は強くなり溫度は增し、着色は充分に出來るといふことになるから、從來の樣な、馬鹿氣た（營利的栽培の上から見て）栽培さへしなければ、其利益は頗る多額に上るのである。

のみならず、露地栽培の茄子は六月下旬に到らざれば、採取出來ないのであるから三月以降五六月に至る迄隨分と永い間を採取し得らる丶故に、其收量の大なるだけ利益も多い譯である。

（二）品種

茄子の品種は甚だ多い。これを大別すると、

大顆種
長顆種　一般に晩生で促成栽培に適さぬ
小顆種

の三種類となるが、前二者はともに促成栽培用としては不適である。前にも述べた通り促成栽培用としてに莖幹短矮にして、豐産、さうして顆形の整正した、早生種でなくてはならぬ。殊に其の色澤は紫黄色で性強健なるを選ぶべきである。

次に其目的に適合した二三種を擧げよう。

一、庄内丸茄子

最も早生であつて、三月下旬となると樹勢甚だ旺盛となり、葉の一枚毎に開花結果する。殊にこの庄内丸茄子の特徴とすべきは、大抵茄子は一花梗に一花が普通であるに、これは二花三花と發生して一花梗から二顆位を完成すること

珍らしからぬもので、實に豐産なる品種である。併し一得一失は免れぬもので、本種の缺點とも稱すべきものは、其色澤の優美ならざるにあるから、着色に付ても特別の技巧を要することである。原産は北海道で樹勢、短小、葉形小にして青綠、促成種として優良なる一種である。

二、京都茂木茄　別名を吉田早生とも云ふ、京都方面に於ける代表的促成種である。莖幹短矮にして、副枝を發生し、本葉五六枚を有すると、開花結實し、その後は一葉毎に開花結實する、頗る豐産の一種である。樹性は強健、顆形は卵圓形、豐饒の早生種で、促成用としては確に優品たるを失はぬ殊に其色澤頗る優美なるは本品の特色である。

三、極早生蔓細千成種

數種の千成種中最も早生なるものであつて、莖幹短小、而して副板の發生も多く樹勢頗る健強なる、豐産の一種である。本葉八九枚で花を開き、それからは

一葉毎に開花結實するものである、顆は卵圓形にして、色澤、優美なるものである。

四、極早生丸形千成種

莖幹、前三種の如く短小でない。そして副枝の發生も前者に劣つて居る。本葉十枚位で開花結實するものである。本種の特徴は顆果の大なると、其紫黑色なる點である。

この他、札幌茄子を初め數多の早生種はあるけれども、以上の品種と比較すると、何れも劣等たるを免れぬ、外國種中であれば佛國種のものがよいが、促成用としは矢張り本邦種を採用した方、初歩の人にはよい。のみならず、外國種のものより本邦種の方、市場に於ける商勢がよい。

(三) 栽培法

(イ) 播種並に育苗法

苗床の構造については既に總論の條下に詳述してあるから、こゝに重復をさけるが、未だ述べなかつた部分があるから以上少しく記述するとしよう。

木框の据付けが終り、釀熱物を踏み込んだなら、其上に三寸位の厚さに植土を搬入して、其内に、立枯病豫防の一策として木灰三四合又は硫黄華二百匁位をよく混合して地均しをするがよいのである。そして四五日經過して床内の溫度が一定してからこゝに初めて播種に着手するのである。

播種の方法には二樣ある。卽ち、條播と撒播とである。其の何れが優れりや、この問に對しては胡瓜と同じく、條播を優れりと言はざるを得ないのである。何となれば、條播は光線の透射佳良で、空氣の流通もよく、强健なる良苗を得る良素を有するけれども、撒播は、然らず、光線の透射不良、且つ空氣の流通、宜しからず、葉は深綠色を呈して一見佳良なる生育の樣に見えるけれども、幹莖は大抵葉綠色を缺き、徒長の傾があるものである。よしかゝる

程度迄に行かずとも、促成栽培品として、優良なる育苗は容易ならぬものであるから、條播を行ふをよしとする。たゝ條播は、撒播より多くの面積を要するの缺點はあるが、これ位のことで、撒播を行ふのは、甚だ遺憾の次第である。著者の郷里は、數年前までは大抵この撒播法であつた。そして茄子苗と言へば必ず、苗屋から購入するものと昔から決定して居た不文律であつた。そして、茄子苗は三本に一本活着すればよいものと締らめて居たのである。隨分のん氣な農業であつた。農業でなくて、のん業であつた。これ卽ち、撒播が齎した一種の缺點であつて、小面積の中に多數の苗木を仕立て樣とする結果に外ならぬのである。故に、其三分の二迄は枯死するといふ不結果を敢てする樣になるのである。露地栽培は、これでもよいが、促成栽培などになつては、かゝるのん氣千萬のことを言ふては居られないのであるから、著者は切にこの條播を奬めたいのである。播種量は條播だつたなら、一坪につき五勺位、撒播であれば

八勺位を度とする。

條間は二寸位とするがよい。

其方法は敢て胡瓜と異なる處はないが、茄子の種子は細粒のものであるから、粒々相接する樣のことのないとは限らぬ故に、播種の際によく注意するがよい。兎角小粒種のものは、播種量多きに過ぎ易きものであるから、かかる弊に陷らぬ樣に心懸くべきである。播種終れば、種子の隱るゝを度として、輕薄なる篩土を以て覆土するのである。そして細目の如露で灌水し、障子を密閉して置かねばならぬ。

播種後は床内の溫度と濕度とに注意し、過濕、乾燥に陷らぬ樣、注意し溫度は常に均等される樣にするがよい。もし、三十度以上にも達する樣のことがあれば却つて苗の爲めに將來惡い影響を與へるから、かゝる際は、葭簀を覆とか、障子をやゝ開いて空氣を流入せしむるとかするがよいのである。かく溫濕共に適度に

與ふると、種子は播種後十日乃至二週間も經過すると發芽するものである。

發芽の際は、灌水を控目にして、溫度も又高からしめぬ樣にするがよい。これは苗の强健なる發達をなさしむる第一の要件である。そして障子を清潔にして、日光の透射を充分ならしめ、夜間は充分に保溫の方法を講じて、强健する苗の發育を計るべきである。

發芽後十日位經過すると甲折の間から、本葉を發生するから、其際に第一回の移植を行ふのである。

(ロ) 移植

發芽後十日目位に行ふが普通である。其適當の期といふのは、甲折の間から將に本葉が發生して開かんとする時がよいのである。元來移植卽ち假植を度々行ふ理由は苗の徒長を防止すると同時に根部の活着力を强からしめ樹勢を强健にする手段であるから、假植の期の後るゝのは、よくないのである。事情やむを得

ざる場合は是非もない次第であるが、出來る限りは早目にするがよいのである。第一回の假植の際は其距離を二寸四方に一株とするがよい。移植の方法は胡瓜と同じであるから胡瓜の條を參照するがよい。

假植後は日覆をして、其活着を計ること勿論である。それから二三週間して本葉が二三枚增生する頃となると、第二回の假植を行ふのである。其時期は、茄子の種類及び樹力の狀態に依つても異なるから一概に言ふことは出來ぬけれども大抵本葉二枚乃至三枚を增生せるごとに假植するものとして置けば間違ないのである。前にも言ふた通り早いのは決して惡しくはないのであるから、この時期に於てするに、早まつたと言ふて、忠臣藏の勘平さんの樣に殘念がる場合はないのである。遲れては人に制せらるゝでなくて茄子に制せられ、收穫に惡しき影響を齎らして來るから、この二三葉增生を度として假植を行ふことを心懸けて置くがよい。

第二回の假植は其距離を三寸平方に一本とし、第三回の假植は四寸平方に一株位とする。但しこの距離は、茄子の品種、生育の狀態等によりて差異のあること勿論である。例へば、極早生丸形千成と、庄内丸茄子とては、其幹莖の大きさが固より異つて居るのであるからこれを同一視することは出來ない。要するにこれは標準を示したのであるから、當業者自身が、よき程に加減するがよいのである生育の大小等實際に於ける場合は自ら異なる現象に出遇ふものであるから臨機應變の處置を取るべきである。

(ハ) 定●植●

茄子は幼苗の時代には其生育頗る遲緩なるものであるが本葉五六枚位着生する頃となると、今迄とは全く反對に非常なる生育力を以て、忽ち、急速なる發育をなすものである。故に第三回の假植をなす頃になればこの急速力の時代に這入らふといふ時であるから、第三回移植後は直ちに定植し得らるゝ樣に本床の準備

をして置かねはならぬのである。

品種、溫床の溫熱高低、濕度の工合、技倆の巧拙等により一定することは出來ないけれども、播種後七八十日を經過すると、本葉も七八葉となり、花蕾を生じて來るものである。かくなれば定植の期に入つたのであるから豫め用意して置いた新設の本床に定植するのである。前にも述べた樣に茄子は定植後、結顆期に入つても、生育は結續するものであるから、隨つて其本床内にある期間も永いのである。故に一定の保溫期を有する溫床であつては、所詮栽培者の期待するたけの永い間を平均に保熟せしめることは容易の業でないから、定植は成るべく花蕾を持つてからがよい。つまり假植とは反對に定植は遲い方が利益なのである。のみならず茄子は他の作物と異なり開花期に移植しても萎凋するとか、枯死するとかいふ樣なものでないから、遲い方がよいのである。

茄子は前述の如く、其品種により莖幹の大小、長短各一樣でないから、定植に

際しても其位置、距離、一框の定植數等一樣にすることは出來ないのである。何れも其品種樹勢に鑑みて斟酌すべきものであるが、こゝに實驗上より見たる一框内に於ける定植數及び其距離を次に掲げて參考に供しよう。

一框は幅四尺、長さ十二尺のものゝ場合

品種名	
庄内丸茄子	三月以前に採取せんとするもの
札幌丸茄子	四列に十二列となし四十八本植
京都茂木茄子	四列に十二列となし四十八本植
極早生蔓細千成茄子	同
極早生丸形千成茄子	四列に十本宛、四十本植
品種名	同
庄内丸茄子	三月以降に採取せんとする場合
札幌丸茄子	四列、一列十本植、四十本植込
京都茂木茄子	同
極早生蔓細千成茄子	四列、一列八本植、三十二本
極早生丸形千成茄子	同

(二) 管理法

温床は前述の如く攝氏二十五度位を均等に保持する樣に釀熱物を踏み込んで置くがよい。そして、病害を豫防する爲めに苗床と同じ樣に木灰を根本に置ぐが宜い。定植後は直ちに障子を密閉し覆簀を以て日覆となし、總論の條に於て述べた如き方法を以て管理するのである。

次に温床栽培は露地栽培と異り、蜂、蝶、蛾などの見舞がないから、當然人工的にこれ等のことを行はねば、結顆せぬものである故に、筆を以て花粉の媒介をなす必要がある。この頃は可成濕氣を排除して、結果せしむべきである。

茄子栽培に於て注意すべきは其剪枝法である。露地栽培等であつたなら、剪枝せずに自然のまゝ放棄してもよいが、促成栽培は短矮なる樹中に多量の顆果を求めようとするのであるから、勢ひ學理的、合理的の剪枝をして、少しの空枝を存せぬ樣にすべきである。

剪枝法には、種々ある。二叉仕立、三叉仕立、肩成天秤仕立などあるが、何れもこれ等は茄子の實際を見ると、諒解の早いもので、書籍で研究せずとも、自らこの方法に合致する樣に出來るものであるから、こゝに說明する必要もないが、順序であるから一應記述して置かう。

茄子は本葉七八葉で葉と葉の間に蕾を生じ其下部の副芽の生育は旺盛となるから、下部の一芽を存して、他の副芽は總べて除去して終ふのである。然かするとこの一芽は絕大なる生育力を以て發育し、こゝに二叉の主柱が出來るのである。これを二叉仕立又は肩成天秤仕立なと稱して居る。この方法によつてすれば一本

で七顆位は容易に結果するものである。

三叉仕立はこの方法に更らに一枝を加へた方法に過ぎぬのであるから敢てこゝに記述する迄もあるまい。要するにこの仕立方は机上の學問よりは實際、實物を見て自ら鍬を下した方が早分りである。

次ぎに茄子栽培上最も重要なる一項を述べよう。これこそ、茄子栽培の生命であつて、鍬を持つ計りでは出來ないことである。

剪枝、整枝の理由はたゝに實顆の多寡を目的とのみして行ふべきものでない。多少よりは、其顆の着色如何を顧慮して行はねば折角の促成栽培も、哀れな結果となり終るのである。元來茄子は其色澤の如何によりて、市場に於ける値段の現はれる物であるから、其着色を誤ると殆と價値なきものとなる。例へば紫黑色なるべき茄子が綠白色を呈して出來たと假定して見よ、如何に熱望せる需要期でも白い茄子は買ひ手がないのである。故に整枝に付いては、たゝに顆を多く

求むるのみならず、其顆を充分に着色せしむる方法を講じなくてはならない。

この着色は如何なる方法によりてするかといふに、これは人爲的には出來ないのである。塗料を以て塗抹する譯に行かないのである。總べて日光に依賴する外はない。強い、烈しい日光にさへ浴せしむれば、茄子は嬉んで自ら着色するものであるから、顆は葉陰にならぬ樣にせねばならない。葉陰より脫出せしめて、充分に光線の直射を受けしむのがよいのである。それから最寒の候に結果せしむる如き場合には容易に蔕の中から其實が出ぬものであるから、人爲的に手で蔕を反轉して日光に多く浴せしむる樣にするがよい。

(ホ) 採取

かくの如くにして結果し、美麗なる色澤を有したものが出來たなら、採收して市場に出すのであるが、この顆も胡瓜と同くあまり完熟したものは促成品として好まぬ處であるから、長さ一寸位になれば販出してもよいのである。最も適當

なものは矮鷄の卵位の大きさのものが市場に歡迎されてゐる。

採取の方法は、胡瓜と同じ樣である。日中採收することは、樹勢上よりも、賣品の上からもよくないから、夕方採取するがよい、夕方は床内の溫度も比較的高溫でないから、床面上よりもこの時が一番よのである。

(ヘ) 肥料

茄子は前にも述べた通り、其生育期間が甚だ永いものであるし、且つ又其需要期間も永いから一栽培が頗る長期に亙るものである。故に肥料の如きも、溫床内に於ける原肥だけでは所詮不足を免れぬものであるから、追肥をせねばならない、肥料は主として窒素肥料を用ふべきもので、これに次き加里、燐酸等である。

一、窒素、蔬果、軟柔に出來て食料に達す。

二、燐酸、果皮堅くなる。

三、加里　硬軟中位であるが、結果多き利益があるのみならず、立枯病豫防と

もなるものである。

右の如きものであるから。窒素質肥料を第一として、堆肥、油粕等を施し、加里質肥料として、木灰を使用するがよい。燐酸質肥料は土質によつては全く必要のないこともあるものであるが、必要とすれば、極く少量施すがよい。

それから生育期間が永いのであるから、この他に數回に亙つて腐熟した人糞尿を施すがよい。

(四) 種子及び採種法

種子は胡瓜の條に述べた樣に、購入することはなるべくさけたがよい。そして自家で採取したものを栽培するが最も安全である。もし止むを得ず購入するとせば次ぎの如き注意を要する。

一、充實完全にして黄金色なるもの　(可良)

二、黄白色を呈せるもの　(未熟品)

三、暗褐色を呈せるもの　(腐敗)

右の如きものであるから、黄金色を呈するものを求むべく其他のものは決して購入すべきものでない。

自家にて採收するには、二番成より採種するがよいのである。一番成は、樹形の未だ整正せぬ時代のもので、顆形も比較的小さく、將來惡變し易きものである。故に二番なりの中から、胡瓜と同じく樹特有の形態、性質を具備せるものを選びて種茄子とするがよいのである。

そうして種子として選定し置いたものでも、盛夏中に顆の横に燒痕を生じたりまた蔕が腐敗に傾きかけたりするものは、採種せぬがよい。これ等は兎角、性質虚弱で病害に侵され易いものである。初秋まで完全に育生して其熟したるものから採るがよい。

(五) 一框の收支計算

茄子も又、胡瓜と同じく種々の事情よりして一框内に於ける收支計算を明らかにすることは不可能のことであるが大體左記の計算を標準としたなら、誤りはないであらう。

一、一框平均四十五本植付と見積ること

二、一本より七顆平均採收と見積ること

三、價格を一個金拾五錢と見積ること

大正八年に於ける東京神田市場の最高値は一個金貳拾五錢であつた。そして二十錢以上の高値を約一ヶ月半繼續して居た。

これにより計算すると、

一金四拾七圓貳拾五錢也　總收入金

一金拾四圓九拾錢也

内譯

一金四圓五拾五錢也　框代一年平均損耗

一金七圓八拾錢也　人夫賃十三人分一人分六拾錢の割

一金貳圓五拾五錢也　荷造費、運賃、其他諸雜費

差引金參拾貳圓參拾五錢也　純益金

右の如き計算を現はすものであるから、栽培其時を得れば實に有望なる栽培品である。

第三　南瓜

（一）南瓜栽培總說

南瓜は蔓性の一年性草本で其露地栽培品は格別珍重される程のものではない。尤も婦人が嬉ぶ食料とは、古來の俚言であるが、それは別として我國の蔬菜中決して蔑視したものではない。夏期より秋期にかけて重要なる蔬菜の一である。

しかしこれは露地栽培品の場合であつて、促成栽培品は露地栽培品と其用途を異にして、近來著しい多額の需要と、而して高價を現した。これは肉詰料理用として、珍重される結果であつて、南瓜の促成品は實に高値を以て取引される有利でかつ將來益有望な促成栽培品である。

但し京都、大阪等に於ては未だ南瓜の促成品は珍重されぬのであるから、主なる需要地は東京と見なければならない。尤もこの南瓜は幸ひに採收後少し位日數を要しても直ちに品質が劣るといふものではないから、搬出地が少しは遠くてもよいのである、勿論。一週間も十日も要すのでは、臺灣産と敢て選ぶ處がないから駄目ではあるけれども。

(二) 品質

南瓜にも品種は多數ある。けれども其促成栽培用としては條件附でなければならぬ。卽ち

一、早生種なること
二、蔓の餘り蔓長せざるもの
三、性最も强健なるもの
四、豐産種なること

等である、この四つの條件を具備したものを左に掲げて參考に供しよふ。

一、居留木橋南瓜、東京府下大崎、居留木橋の産であるのでかくは稱するのである。早生の一種で肉質緻密、風味も頗る佳良なる優種で顆は扁圓形、顆面に粒疣狀の皺が多い。

二、三里早生南瓜　高知縣下三里村の産である。夥は扁圓形、深い縱溝のある、肉質の緻密な、甘味の多い、豐産の種である。

これ等が最も促成栽培としては適當のものである。

(三) 栽培法

前にも述べた如く、南瓜の促成品は肉詰料理用として、珍重さるゝものであるから、從來の樣に、肉質の充實を計るを目的とするとか、澱粉の顯出するをまつて採收するとかいふ樣なことは近來不用になつて來た。形の整正した、顆面の濃綠色なるものが嬉はれるのであるから、栽培の方針もこれに準據してされるがよいのである。以上、總說の條に於て述なかつた、特殊の栽培法を記述しよう。

一、播種法

播種法は、胡瓜、茄子等と異なつて、撒播の條播のといふものではない、南瓜の如き大粒種のものはこれを摘播と稱し一粒づゝ摘み播くのである。其摘播法は胚部を下方に向けて一粒宛、殖土内に押し込むのである。そして灌水して後種子の厚さの約二倍の覆土をするがよい。

二、苗床

苗床は、殖土を五六寸の厚さに搬入して三寸乃至五寸間隔に、摘播するのである。この際もし、二株を以て一株に培養する積りであるなら、二粒宛、一ケ所に摘播するのである。床内の溫度は十八九度を以て適當とする。

三、假植

南瓜の假植は一回でよい。播種後約一週間も經過すると發芽するものであるから、本葉の發生をまつて假植をするがよい。假植の適期は本葉三四枚着生した時である。假植の方法は胡瓜と異なる處はないから胡瓜の條を參照するがよい。

四、定植

既に本葉三枚乃至四枚位着生したなら、豫め用意の本床に定植を行ふのである。床の溫度は苗床よりやゝ高く攝氏二十度位を適溫とされてゐる。床面の殖土は、溝泥、腐壤等に油粕、過燐酸石灰等を混じて腐敗せしめたものがよい。植附の距離は、二尺に一尺五寸が適度である一框に植込本數は八本位であらう。

五、管理法

定植後充分に活着したなら、本葉三枚を殘して摘芯するのである。すると、間もなく甲折部及び殘された各葉腋から盛に腋芽を發生するから、適宜の位置に生ぜる適當なる枝を二枝だけ殘してあとは遠慮なく摘み捨てるのである。そしてこの二つの枝を主枝として充分の發育をなさしむるのである。

開花(最初)の頃生長が餘り旺盛であると最初の顆を充分に生育せしむることが出來ないから、この頃の生育は餘り旺盛ならぬ樣にするがよい。顆を有する枝は葉二枚を殘して摘芯し、腋芽を除き、極力勢力を顆に與ふる樣に努めねばならぬ、かくすれば、一株五六顆は穫れる。

花紛の交配をすることは茄子と同じである。

六、病害蟲

性强健のものであるから、殆ど病蟲害に侵さるゝことはないが時として、白黴病にかゝることがある。かゝる場合には、ホルドー液を用ふるがよい。

(四) 一框の收支計算

一框八本、一本五顆(最少限)と見積る

一個の價を平均金六拾錢と見積る

(大正八年神田市場の最高値段)

これによつて收支計算をすると、即ち次ぎの如くなるのである。

一金貳拾四圓也	總收入金
一金拾壹圓八拾五錢也	總支出金
内譯	
一金四圓五拾五錢也	框一ヶ年の平均損耗
一金四圓八拾錢也	人夫賃八人分一人六十錢の割
一金貳圓五拾錢也	運賃、荷送費、其他諸雜費
差引金拾貳圓拾五錢也	純益金

茄子、胡瓜等に比して其純益金は少いけれども、其栽培の手數を要することの少くないのは一人の手を以て、多くの框を處理して澤山の收獲を得る方法をなすから、結局一框の收入は劣ると雖も、これを實際栽培の上から、見る時は決して劣るものでなく、却つて前二者に優る收穫及び純益を一人の手を以てすることが出來るものであるから、頗る有利なる栽培品たるを失はぬ。ことに其需要は累年增加の傾向を示してゐるのであるからこれが栽培は前二者に優ることはあるとも劣るが如きことはないと思ふのである。

第四　越瓜栽培

（一）越瓜栽培總說

越瓜は蔓性の一年生草本で、殆ど胡瓜と同じ樣な性質、形態のものである。其栽培は古來より行はれたもので、其需要も頗る廣く、茄子、胡瓜と併び稱せられ

本邦蔬菜中最も重要なるもの丶一である。隨つて其促成栽培品も、多くの需要を有し、高價に販出することの出來るものである。たゞ越瓜の缺點として、比較的成熟期間の永きと、移植を忌む爲めに、早熱を促がすに不便を感ずるのである。

促成品は、鮮魚の交品として珍重せらるのであるから、必ずしも早きを貴ぶものでなく、三月より五月の交を以て最も高價なる時とされてゐる。

從來は越瓜栽培は甚だ六ヶ敷いものとされて、これが栽培者は比較的技倆の巧妙なるもののされるものとのみ考いてゐたのであるが、近年促成栽培の業、著しき進歩をなして來てからは從來のこの誤見は一掃されて、有利なる栽培品として各地に其栽培を見る樣になつて來たのは、越瓜の幸福のみであるまい。促成栽培の一進歩として、食通の甚だ嬉ぶ處である。其促成品は頗る高價に取引されるものであるから、今後この促成栽培に着手せんとするものは大に試みるがよいのである。

(二) 品種

栽培に永き歴史を有するものは、隨つて其品種も多くなる譯である。越瓜も其律にもれず其品種は貳拾餘種に上つて居るが、前にも述べた樣に、促成栽培としては、比較的進歩して居なかつた爲めにこれに適當なる品種は少いのである。

越瓜の促成栽培用としては

一、蔓のあまり伸長せぬもの

二、顆果のあまり大ならざるもの

三、早生種なること

四、結果數の多きもの即ち豐産なるもの

でなくてはならいなが、元來越瓜は胡瓜と異り其蔓の伸長力は甚だ強大なるものであるから、一框内に四十本、五十本といふ如き多數を植込むこと困難である故に勢い結果數の多きものを選定する必要がある。今の促成栽培用として最も適

品なりと認められて居るものは次の二種である。

一、早生越瓜　一名龜戸越瓜

外皮は淡綠色で、顆は小さいけれども、結顆數は頗る多く、其肉は柔軟で風味も又佳良なる種類である。越瓜中最も早生なるものとされてゐる。

二、霧島越瓜

霧島越瓜は、蔓甚だ短矮で、其葉も又小さく、促成品としては最も適當の條件を備へてゐる。顆は白色、短小であるけれども、豐産なる早生種であつて其風味も甚だ佳良である。

この二種が最も適して居る。この外にも種々の品種があるから、土地の事情によりては他の種を作るもよからうが、しかし前掲四ヶ條の要素中少くとも三つを具備したもの丶内から選定するがよい。

(三) 栽培法

越瓜は比較的多くの溫熱を要するものであるから、溫床も、その積りで初めから用意して作らないと、補熱法や蘇熱法などを行ふ手數を度々繰り返さねばならぬから、最初相當に用意するがよい、(平常溫度二十七八度を適溫とする)

一、播種法

土鉢の中に三四粒宛、播種して其内より最も優等なるもの一本を殘して間引するのである。卽ち劣等品から漸次に間引して最優等品を一本殘留せしむるとにするのである。其播種の方法は胡瓜と別に異る處はないから省畧する。

二、定植

前にも述た如く、越瓜は移植を忌むものであるから(土鉢に苗を育生せしめたなら假植をせずに、直ちに定植をするのである。

本葉三四枚着生したなら、土鉢より叮嚀にうつしとつて定植をするのであるが、この際は充分灌水して、越瓜をして移植されたを知らしめぬ樣にするがよ

いのである。つまり土鉢に播種したのも一は其爲めであるのであるから、なるべく、知らぬ内に位置を換いてしまつた方がよい。

一框の定植數は二十四本とする說と、十二本との二說あるが何れにしても一得一失は免れない。初めの人には十二本植込が安全でよい。段々技倆の巧妙となるに隨つて定植數を多くして行くがよいであらう。

三、溫床

溫床は、腐釀した溝泥等を混合して作る殖土を、釀熱物の上に約五六寸均等に盛りこれに定植せしめるがよいのである。

四、摘芯

摘芯は結果の多寡を定めるものであるから、必ず怠つてはならない、本葉、四枚となつたなら、三枚だけ殘して、摘芯するのである。すると結局强壯なる葉が二葉殘留するのである。これから出た腋芽を發育せしめて又五葉目で四葉

を殘して、摘芯すると、各枝に强壯なる枝が三つ新らしく發生することになる、かくすると一株に八枝出來る譯である。この一枝に各々開花結實せしむると一枝一ケとしても八ケを得らるゝのであるから、隨分立派な越瓜が出來ることになる、この上この順序を以て摘芯したなれば一株十ケ乃至十二ケは必ず收獲出來るものである。

尙、肥培、管理等其伎倆が上達したなら十五ケ乃至二十ケ位を得られぬとも限らぬのであるが、かくの如きを望むは却て不利益であるから、十二ケを限度として、他の栽培に移るがよい。

五、採收　胡瓜と同じ。

六、肥料　稀薄なる窒素酸加里を少量づゝ用ふる。

七、播種　胡瓜と同じ。

八、病蟲害　茄子に同じ。

（四）一框の收支計算

一金參拾貳圓四拾錢也　總收入金

一金拾四圓貳拾五錢也　總支出金

內譯

一金四圓五拾五錢也　框一年の損耗見積

一金七圓貳拾錢也　人夫賃十二人分一人分六十錢の割

一金貳圓五拾錢也　運賃、荷造費、其他諸雜費

差引金拾八圓拾五錢也　純益金

この計算は越瓜一ケ平均を拾八錢と見積り一框の生產額を百八十ケとしたものであるが實際に於ては、これ以上の價格を持つて居るのである。

第五　土當歸栽培

(一) 土當歸栽培總論

土當歸は本邦特有の蔬菜である。從來到る處の山林に存生するものであるが、近來園藝として栽培される樣になつたものである。この點に於て蕗と同じ樣な、經路を持つて居る。

土當歸は促成品、早熟品、軟化品共に市場に多大の歡迎を得て居るもので、有利なる栽培品である。殊に其軟化品は最も有利なるものとされてゐる。

(二) 品種

土當歸は前述の如く其栽培が近來に屬する故に其品種も少なく、普通土當歸、寒土當歸の二種に過ぎぬ、尤も各地方で適宜の名を附して置くから一一擧げると頗る多くなるが實は大抵同種異名が、多い樣である。

一、寒土當歸

本種は攝氏七八度の低溫で發芽するものであるから、不時栽培品として最も貴

ばれてゐる。もと東京附近で發見されたものであるが、今日では到る處に軟化栽培をされてゐる。

寒土當歸には白芽、赤芽の二つがある、白芽は嫩芽淡紅色で風味美、且つ軟化の際に枝を出すことが少くないが、赤芽は品質やゝ劣等で、紅色が濃く充分に光線を遮斷しても純白とならないで、枝を出したがる傾がある上に表面に毛茸を生ずる缺點があるから、栽培には白芽を用ふるがよい。

二、普通土當歸

春土當歸ともいふ。寒土當歸に對しての名稱であらう四月以降に發芽するものである。これには種類が頗る多いが、促成栽培としては、埼玉縣の極早生白、京都府下の江戸町早生及び與左衞門等がよい。これ等は、寒土當歸の如く低溫では發芽せぬけれども、二十度內外の溫度を以てすれば、四十日位にて市場に販出することが出來る。一般に嫩芽肥大で、肉質太り香氣强く、且つ美味、品質

遙かに寒土當歸に優つて居る。

(三) 株根育成法

肥大な嫩芽を產出せしむるには、夏期に充分株を發達せしめなくてはならぬ。株根を育成するには、株分と實生と二法ある。

一、實生　實生を行ふには秋期黑色に熟した種子を採收して冬期間乾燥せしめぬ樣土中に埋め置き翌年三月頃肥沃の土地に一尺距離を保つて條播し二三分覆土して藁を被ひ置くと四月頃發芽するから、藁を除き去りて徒長を防ぎ、密生するに隨つて間引をなし、最後に二三寸の間隔となし、生育中二三回追肥を與へると、秋期迄には二尺餘りになるから暖い土地なら十一月頃、寒い土地なら翌年の三月定植して、三年目から軟化、促成の栽培用に供するのである。

二、株分　各片一二芽を保つ樣に切り放ちて三四月の頃定植する、

定植距離

(イ)土寄法の場合、畦幅四尺乃至五尺、株間三尺位

(ロ)軟化場に移植の場合、畦幅三尺、株間一尺五寸乃至二尺位

三、肥料、原肥——多量の有機質及び窒素肥料、

(四) 栽培法

栽培法には種々あるが何れも促成栽培に屬すべきものである。卽ち定植促成法によるもの、

(一) 三四尺畦幅に栽培して、畦の中央に溝を穿ち、堆肥を埋め其上に土を盛り上ぐ、

(二) 三四尺の畦幅に二尺位隔てゝ植栽し置さたるものに秋末釀熱材料を積み上ぐ、

移植栽培によるもの、

(三) 溫暖なる土地に溝を穿ち、細土を根の見えざる迄に覆土し、其上に釀熱

材料を覆ふ、一溝は幅二尺五寸位深さ一尺五寸位、

(四) 溝の中に根株を密植し、少しく土を覆ひ其上に醸熱物を覆ふ、(幅四五尺深さ一尺五寸位)

(五) 木框内に行ふ、

(六) 軟化室内に行ふ、

この外にも其方法は澤山ある蓋し讀者中にも、これ以外の方法を以て栽培されて居るものが少くないことであらふが併し大同小異であるから省略する。

要するに、利益ある方法としては、

一、軟化室栽培、

二、木框利用栽培、

三、溝内栽培(三四法)卽ち早熟栽培、

である。こゝに參考の爲めに室内栽培卽ち軟化室栽培の一法を述べよう。其他の

栽培はこれに準據し或は、他の促成栽培法に準據すればよいから、こゝに改めて説明する要はあるまい。

(五) 軟化室栽培法

軟化室の構造は既に總論の時に述べてあるから分明せるこゝと思ふこの室内栽培場に、肥大なる株を畦幅一尺株間五寸乃至一尺となして植栽するのである。其期日は十月上旬頃よりするがよい。而して採取後は順次に其株の交換を計つて勢力の旺盛なるものより採取する樣にするのである。

同じ軟化室と名の附くものにも大阪三島町の室内栽培はこれとは全く異なつて、水稻の跡地に藁葺小屋を構造し(大抵十五坪位)て十一月下旬より一月下旬迄に順次土當歸の株を撒入して、これに栽培するのである。其方法は第二法第三法と異なる處はない、この方法は頗る大規模に實行されて居て、今日は作付反別百二十餘町歩に達してゐる。以て如何に土當歸栽培の有利であるかを證するに足るで

あらう。

(六) 收支計算表

土當歸の收支計算は頗る困難である。是れは其栽培の異るによりて、其收入も又異なるからである。而して其支出の如きも全く一定することは出來ない。或る方法は、勞力のみを以て充分なるもあり、或方法は相當の經費を要するもあるので所詮正確なる收支計算を求むることは所詮無理である。

次ぎに收入計算に換るべき收入及び、市場の値段を記して參考に供さう。

一貫匁相場、(大正七年より八年迄)

十一月中平均一圓八十錢位

十二月中平均一圓五十錢より一圓八十錢位

一月中平均　二圓乃至二圓五十錢

二月中　一圓三十錢乃至一圓五十錢

三月中　一圓三十錢內外

四月中　一圓內外

これは眞の大概を示したもので一二月頃は、一把二把の賣買である。長さ一尺以上二尺以內位のもの二三本を一把として大抵賣買されて居るものである。この一把にして本年は最高三十七八錢に及んでゐる。

要するに土當歸栽培は其品種優良のものを選び室內栽培を行ふたなれば一坪十五圓を得ることは容易のことであるから、現今の促成栽培品に於ては最も有利なるものである。我國に於て最も其栽培の盛んなる處は、埼玉、愛知、京都、大阪等であるが、殊に大阪、埼玉は不時栽培に於て最も成功してゐる。販路は內地は勿論、滿韓、西利亞に及んでゐる。

第六　石刀柏栽培

（一）石刁柏栽培總說

石刁柏は「マッバウド」と讀むのである。西洋蔬菜中最も優良なるもの丶一種で高等料理として最も貴ばれ其需要は近年著しく增加し殆ど品不足を以て通り言葉になつて居ると言はれてゐる。特に夏期に入ると全く絕無となるので歐米より罐詰として、輸入を仰いでゐる有樣であるとは、實に殘念な次第、何故に農家はこれを等閑視して居るかと思ふのである。

現今、栽培されてゐるのは僅に横濱、神戸の二ケ所に過ぎぬとは如何なる譯であらふ、餘りに高等なるが爲めに邦人のこれを食するものなく、歐米人のみの食料である所以であらう。併しか丶る時代は數年前に過ぎ去つた。今は生活力程度歐洲人に讓らないのである。いつまでも石刁柏の栽培を一部少數の人の利益に任せて置くべき時ではなくなつたのである。

（二）栽培法

石刁柏の栽培法には二樣あり、其一は土寄法であつて、土當歸と同じであるからこ丶に說明する迄もないことであるが他の一は木框を用ふる軟化法である。これも總論の條下を熟讀すれば分明することで敢てこ丶に、記述する必要もないのであるが、未だ人々に熟知されざるものであるから、重復の嫌ひはあるが記述しよう。

冬期、溫暖なる土地を選で、（東北地方なれば宅地內等がよい）多くの有機質及窒素肥料を施して整地し、春期發芽前に二年生の株根を一尺五寸平方の距離に定植し、夏期中度々追肥を施して充分に株根を肥大させ、十二月に這入つたら、根元から莖葉を刈り取り、充分に窒素を施し其周圍に例の木框を布設するのである。

一つの木框は二十四株を被ふことが出來る譯である。木框の內には一杯に軟土を充だして株を埋め上に油障子又は苫菰等を被ふのである。そして保溫の爲めに框の周圍に釀熱材料を埋めて置くがよい。石刁柏は夜間十度、晝間二十度內外が最

も適温である。

右の如く其栽培法は頗る簡易である。採收は設床後三十日位で始め得られ、殆ど二ヶ月間繼續出來るものである。栽培中注意すべき事項は、

一、肥大なるを獲る樣に充分に肥料を施すこと。

直徑五分のものが二十錢なる時三分のものは十錢に充たない。十匁のものが十五錢の時に五匁のものは五錢位に下落するから、大なるものをよしとするのである。

二、先端に着色し易いものであるから、着色せしめぬ樣によく日覆、覆土等をなし、澎軟土を用ひ、堆肥を用いぬ樣にするがよい。

着色されてゐるものは二三割安値となるものである。

品種はジャイアンドフレンチと稱するものが最もよいのである。

(三) 收支計算

收支計算はこれ又土當歸と同じく、到底明らかにすることは出來ないけれども、十二月以降、不斷收穫の出來るものであるから、一框の收量も決して少くないのである。併しこれは所詮數字に現はすことは不可能であるから、現今の市場相場を掲げて參考に供さう。

優等品、(一本十匁以上のもの)

最高價、四月中百匁七十錢

同　三月中百匁六十錢

最低價、四月中百匁五十錢

同　三月中百匁四十五錢

同品　促成品、十二月以降三月上旬迄

最高價　百匁　一圓八十錢

最低價　百匁　一圓四十錢

一本二十匁以上のものとなると百匁二圓以上に賣れるものである。而して二十匁以上のものは木框利用に於て充分に出來得るものであるから、一框二十四本を植附けあるものとすればそれによりて、大抵大略の收支計算は出來るであらう。

第七　冬瓜栽培

（一）冬瓜栽培總說

冬瓜は從來促成栽培として用ひられたことは無かつたのである、然るに近來に到りて、其需要俄に激增し、今日に於ては南瓜と同じく促成栽培品の最も有望なものゝ一となつた。それは南瓜同樣、肉詰料理として珍重されることゝなつたからである。故に南瓜と同樣これも大なるものよりは寧ろ小なるものが尙ばれるのである。餘事ではあるが、こゝに肉詰料理とは如何なるものなるかを記して置かう。これ蓋し栽培上大に必要のことゝ思ふからである。需要の方法を知らずし

て、栽培すると、兎角方向違ひのものを作らぬとも限らぬから、老婆心ながら記述する譯である。

肉詰料理とは、南瓜、冬瓜等の軸を切り取りて、內部の種子其他を取り出し、この內に肉、（普通牛肉、鷄肉等）をたゝきとなして入れ、醬油、味淋、其他の調味料を加へ、軸を元の如くになし、これを蒸すのである、すると、詰られた調味料によりて南瓜、冬瓜等に適當の味がうつるのである。かゝる料理であるから、其促成品は百匁以內がよいのであつて、餘り大きいものは却つて賣れ行きがよくない。而して、この小なるものでよいといふことは促成栽培には最も都合よいことて、洵に誂ひ向きと云はねばならない。

それ計りでなく、促成栽培に好都合なのは、其最も若いものでよいことである。即ち普通蔬菜として使用するものなれば、外部の刺落が脫して、白粉を帶びてからでないと役に立たぬのであるがこの肉詰料理に使用する冬瓜はかゝるものは却

つて困ることで、未だ刺のある、白粉を帶びぬ未熟の時がよいのである。

以上二つの理由は實に我々促成栽培の願ふてもなき、好都合のものであつて、隨がつて促成栽培に大なる利益の存する譯である。

(二) 品種

冬瓜にも其品種は決して尠くない。併し促成栽培品としては何物も同じく、早生種ならねばならぬがこの理由よりすると、廣島市で出來る早生冬瓜が最も適種であるのであるが、殘念乍ら其形がよくないので市場に出して歡迎を受けない。矢張り市場向きは在來種がよいのである。如何に栽培者に好都合の種子でも、需要が無くては役に立たぬから、需要のある在來種を選ぶべきである。

元來、肉詰用に使用するものは其形圓きものでなくてはよくないのである。これ故に、廣島市產の早生冬瓜は稍々長みを帶びて居るので歡迎されぬ次第である。

(三) 栽培法

冬瓜は其栽培に頗る高溫を要するものである。故に其床溫保持は栽培者にとりて一種の苦痛であるが、併し比較的高價のものであるから、栽培者に於て收支計算に不利を招く樣のことは斷じてないものである。

冬瓜の適溫は攝氏二十七八度である。故に釀熱材料の踏み込みは、胡瓜よりやゝ厚く二三寸を增加する必要がある。採收は播種後三四ヶ月を要するものであるから、其最も高價を呈する四五月頃に採收するには十二月上旬乃至一月上旬に播種するがよいのである。

播種の方法は、南瓜と同樣であるから、こゝに記述する必要はないであらう。其一框に對する量も南瓜に準じて行へばよいのである。其他促成栽培に關する總べての方法は胡瓜と同じき管理をすればよいのであるから、詳細は胡瓜栽培の條を參照せらるゝがよい。

(四) 種子及び其保存法

總べての栽培法は胡瓜と等しくすればよいのであるが、其播種法は胡瓜と異にするからこゝに改めて記述することとする。

元來促成栽培用の種子としては其發芽の遲きを甚だ忌むべきである。故に種子は速かに發芽せしむすべきまであるが、兎角大粒種のものは、比較的其發芽が遲いものであるから、冬瓜の如きも普通に保存し、普通に種播すると、其發芽は非常に後れて豫定の期日に結果を見ることが不可能となるから、其保存の方法も講じなければならないのである。

冬瓜の種子は、瓤のまゝで播種期迄保存するがよい。卽ち十二月上旬播種するものとすれば、それ迄冬瓜を其儘室内に保存し、播種に先ちてこれを斷り種子を出して、播種するが最もよい方法である、もし冬瓜を其以前に食料に供せざるんとするなれば種子は排水の佳良なる土地を選んで土中に埋め置き、播種期に到りて掘り出し、溫床内に播種するがよいのである。何れにしても、種子のみを取

りて乾燥保存しては其發芽甚だ後れて、豫定の期日に收穫は見られぬものである。

(五) 一框の收支計算

冬瓜も其收支計算を明かにすることは種々事情上不可能のことであるが、三月下旬より四月中に販出し得る樣に、栽培し得たなら、百匁當り一圓二十錢乃至一圓六七十錢に達するから其收益も頗る莫大なものである。

一框十二本植込として一株二ケ平均の收穫

一ケ平均五十匁乃至八十匁としての計算

一金二十四圓也　　總收入金

内譯

一金四圓五十五錢也　　木框一ケ年の損耗見積

一金二圓五十錢也　　運賃、荷送費等

一金四圓八十錢也　　人夫賃八人分一人分六十錢
差引金十二圓十五錢也　　純益金

冬瓜は右の如き計算によりて其利比較的僅少であるけれども、南瓜と同じく、其手數を要することが少くないから、一人當りの框數を多く使用することの利益があるので、五十露盤の計算は少くなくても、實際に於ては、胡瓜、茄子等に劣らぬ、金額の利益を一人の手に依つて上げることは決して六ヶ敷い仕事でないのであるから、薄利なる栽培とは言はれないのである。

第八　蕗栽培法

（一）蕗栽培法總說

蕗は我國の山野到る處に自生せる野生草本で、これが栽培は宅地の一隅又は畑地

に殆ど野生的に放棄的栽培をされて居るに過ぎなかつたのである。故に今日迄は殆ど蕗栽培なるものを口にするものもない程であつた。處がこの野生的栽培は品質甚だ硬はく、苦味多くして食料としての價値甚だ少なかつたのであつたが、近年都會附近に於てこれが改良栽培をされる樣になつてから、漸々其野生的氣分を脫出して、漸く栽培品的素質を備ふる樣に變化して來たのである。

殊に近年名古屋市附近海部郡及び西春日井郡の二郡に於て早生蕗栽培以來名聲一時に高く、其需要は著しい增加を示して、內地は勿論遠く浦鹽より西伯利亞に迄で輸出さるゝ樣になつたのである。而してこの蕗栽培法は顯著なる改良の下に、促成、軟化等が行はれる樣になつたのである。

（二）品種

蕗には品種として擧ぐべき程のものはない。促成栽培品としては、現今名古屋市附近に栽培されでゐる。早生蕗が最も適して居る。その他は卽ち在來品と稱する

ものを殆ど野生品と選ぶ處がないのである。

(三) 栽培法

露栽培は促成栽培と云はんよりは早熟栽培と云ふが、寧ろ適切である、現今行れてゐる促成栽培は、促成栽培兼早熟栽培並びに軟化栽培である。

まづ順序として其繁殖法より述べよう。繁殖は總べて株分けによるのであるが、其株分の期には、春期と秋期との二期がある。其何れをとるべきかと言ふに各一利一害にして、一定することは出來ないけれども、株を遠く輸出する場合は秋にすべく、近き場合は春期にするもよい。收穫を早く見る上からしては春期にすべきであるが、資本を少くしようとなれば秋期に行ふがよいのである。要は栽培者各自の意見によりて決するがよい。

株分けの方法は、まづ古株を除き去りて、五六寸位づゝに切り割るがよい。この時先端に伴ひある地下莖の根を損せぬ樣にすることが肝要である。而してこの切り割つたものを移植するのであるが、其移植すべき土地は、

一、有機質の含量多き土地、

二、日あたりよき溫暖なる場所、

三、輕鬆土(なるべくなら)

がよいのである。かゝる地をよく耕耘して、深さ五六寸の畦を掘り下部に堆積肥料を撒布し其上に細土を盛りこれに株を植ゑるのである。そして、約三寸位の覆土となし、藁其他適當のものを敷いて置くがよい、植込の定數は一尺五寸間隔位が適當である。

發芽後は追肥として稀釋したる人糞尿を施すがよいが、常に又有機質肥料卽ち堆積肥料を撒布して其生育を計ることを忘れてはならない。

溫暖なる地方、千葉縣安房郡、靜岡縣田方郡、和歌山縣德島縣に於ては別段早熟栽培として特別なる手數を用ひずともよいのであるが其他の地方、換言すれば

れより寒冷の地方では、栽培地の周圍に藁圍をなして防寒の方法を講ずるがよい。圍は高さ三尺位となし、一ケ所の出入口を設け出入口は同じく圍と同樣の扉を作つて開閉に便にし、圍の上には、竹を縱横に渡して、寒冷の日、夜間降雨等の覆蓋とするがよいのである。かくすれば二月より三月の間に充分なる收穫を見ることが出來るものである。(勿論土地の氣候によるから一概には云はれぬけれども)

(四) 收支計算

斯上の如き早熟の栽培をするとすれば、最も相場の高潮に達する二三月頃市場に販出することが出來るから、現今(大正八年春相場、總論の條參照)の値段を以てすれば一坪三圓を得ることは容易なることであらう。但しこゝに一の注意を要するのは、愛知產の早生蕗が市場に販出されると相場は一時に下落して、殆ど半値或はそれ以下になるものであるから愛知產の早熟もの丶出荷なき間に市場に出

す樣にするがよいのである。

二月上旬は一尺位のものを十本一把として市場に出すのであるが、それより順次本數を增して下旬は十五六本位を一把とするのである。元來蕗は其生長著しく速かなものであるから、今日一尺のものは明日は一尺二寸となる樣に日增しに其大きさを增して來るから、販出期の後る丶程其容積は大きくなるものなることを承知して置くがよい。

次ぎにこの蕗栽培は山林の下地等を利用すると其利益は更らに增すものである。詳細は拙著山林三重利用收益法を參照すべし。

第九　菜豆栽培法

附、早熟栽培法

抑制栽培法

(一)菜豆栽培總說

菜豆の促成栽培品は胡瓜に次ぎて其需要の多なるもので殆ど無限といふも過言でない程である。殊に早熟栽培品は需要の最も多き期節であるから、如何に多く栽培しても販路に差支を來すが如きことは決してない。これ蓋し價の廉なる爲めでもあうが、併し其用途の多きも又一大素因である。

菜豆は市價甚だ廉なるもので、地の促成品の如く高價に販賣することは出來ぬけれども、收穫も多く、又費用も少く、手數を多くを要せずして栽培し得る利益があるから、促成栽培としても、早熟栽培としても又抑制栽培としても其收利は尠くないのである。

次ぎに其栽培上の利益なる諸點を掲げて參考に供さう。

一、低溫にて栽培することが出來るから、釀熱材料を要することが少くともよい。

二、低溫で出來る故に他の栽培の廢床を利用しても充分であるから、殆ど資本を要せずして促成栽培が出來る。

三、短期間で出來るから、費用も少く隨がつて病害、蟲害等を受くることがない。

四、冬期間僅に一回でなく、何回も一つ木框を利用することが出來る。

五、栽培が甚だ容易である。

六、性强健で、發達は頗る完全に出來るから殆ど失敗といふことがない。

七、硝子障子を用ひず、油紙障子でも充分なる結果を見られる。

八、需要甚だ多く、如何に產出するも、販路を恐るゝ等のことなく、且つ比較的永く需要期間があるから、度々栽培を繰り返すことが出來る。

(二)品種

品種は甚だ多く、隨つて其性質特徵等各異にしてゐるが、栽培上から大別する

と、

硬莢種

軟莢種

の二種として取扱ひが出來る。前者は促成栽培、早熟栽培等に適當とは云はれない、普通栽培の適品である。促成、早熟、抑制の栽培には、次の如き條件を具備した品種を選ばねばならない。

一、莢の鮮綠にして光澤のあるもの、

二、莢は二三寸で形の正直なるもの、

三、莢面が平滑で、凹凸のないもの、

四、軟莢種なること、

五、矮短にして强健なること、

この條件を具備したものは容易にないが、これに近いものを擧げると、

一、プリンスノア、(佛國種) 蔓無しであつて、矮小性甚だ强健である。俗に黑莢豆と稱し、早熟栽培にも抑制栽培にも共に適品である。

二、長鶉莢豆、東京附近で盛んに栽培されてゐる促成栽培に適した品種である。

三、名古屋蔓無莢豆、名古屋市附近に多く栽培さるゝ一種で長鶉莢豆と共に、早熟、抑制の栽培に適した品種である。

(三) 栽培の時期

莢豆は前にも述た通り其成熟の期間が頗る早いにも係らず其需要期間は比較的永いのであるから一回の收獲のみを以て終りを告げるのは殘念である。故に二回三回と順次に栽培して充分に需要を充した方がよい。尤も東京附近では一框中に百株以上を栽培して第一回の收穫を以て止め、直ちに抜き取つて他の栽培に移る樣にしてゐるが、これは土地の事情によることであるから一般的にかくすべきものではない。

次に其時期を表によりて示さう。

	播種期	定植期	採收期
第一回	九月中旬	十月上旬	十月下旬より一月中旬
第二回	十一月上旬	十二月中旬	一月上旬より三月中旬
第三回	十二月下旬	二月上旬	三月下旬より四月下旬
第四回	一月下旬	三月上旬	四月上旬より六月中旬

以上其最も有利なるは第四回であつて第三回これにつぎ第一回が最も利益薄いものであるがこれは廢床を利用し得らるゝので資本を要せぬ利益がある。

(四) 栽培法

菜豆は有機質を多く含有せる輕き土質を好むものであるから、かゝる土地を選んで栽培するがよい。が促成栽培に於ては敢てかゝる土質を選定する必要はない、普通の殖土を使用してよいのである。床溫は晝間二十度内外、夜間は十五度を最低として保溫したらよいのである。元來强き日光を忌むものであるから、餘り光力が强いと、萎凋する故にかゝる時には少許の日露をするがよいのである。溫床栽培と否とを問はず其播種の方法は、南瓜、冬瓜等に準じて行ふがよい、而して二本を一株とした方が收穫利益である。畦幅は四寸となし、株間を二寸位に摘播するのであるが、發芽後本葉一二葉を育生したなら四寸平方に一株となして第一回の假植を行ふのである。而して第四葉を育生すれば定植するがよい。一框に對し五列、一列十二株として六十株を定植するのが適當である。

(五) 收支計算

菜豆の收支計算も殆ど不可能事に屬することである。何となれば其採收期が殆ど一定して居ないので標準の相場を見出すことが出來ないからである。以下其收穫を記して、收支計算に換へよう。

普通菜豆の收穫は一框二千莢と稱されてゐる。其栽培方法宜しきを得ればこれ以上に收穫のあるは勿論であるが、初歩の時代には千八百莢位を見込んで置いた方が大差ない計算であらう。毎年二月頃の市場相場は百莢四五十錢である三四月頃は五六十錢位が通り相場であるが時には七八十錢に奔騰することもあるから一定することは出來ない。但し四月中旬に入ると溫暖地の早熟栽培が市場に顯はれるので相場は急轉直下して廉價となるは毎年の例であるから、促成栽培者はこゝに深く注意して、この厄にかゝらぬ樣に心懸くるがよい。

第十　鵲豆栽培法

(一) 鵲豆栽培總說

鵲豆は其需要殆ど關西に限られてゐるもので、東京に於ける需要は甚だ少ない、隨がつて關東には其栽培は稀れであるが、京都、大阪等に於ては重用なる蔬菜として其栽培は甚だ多いのである。故に關西地方に於てはこの鵲豆は頗る有利なる促成品の一である。

(二) 栽培法

其栽培法は、南瓜栽培と同樣であるから、附て參照するがよい。こゝには重復するから省略して、南瓜栽培以外特殊の部分だけを記述することゝする。

一、播種、方法、南瓜に同じ、

時期、十一月上旬、

二、採取、四月中旬より五月中旬まで

（農商務省興津試驗場の實驗では十一月上旬播種して五月下旬採收、一框に付き二千六百五十莢を得たといふことである）

一花梗に十數莢を着生するもので一框三千莢は得らると稱せられる。

三、市場値段

四月中旬より五月中旬までは百莢につき一圓位、

五六月になると百莢五十錢乃至七十錢位、

これは何れも關西相場である。

（三）收支計算

別に收支計算を立てずとも、自ら分明せることであらう。一框二千莢と見積り、内一千莢は四五月の採收一千莢を五月及び六月とすると、其全收入金は、

一金十圓也　（四月迄の採收一千莢分）

一金五圓也　（六月迄の採收一千莢代）

計金十五圓也

要するに鵲豆の促成栽培は關西に於ては今後頗る有望なるものゝ一種たることは疑ふべからざるものである。のみならず、今後は罐詰材料として其需要も又增加すべき傾向を持つて居るから、其販路に困難するが如きことは無いのである。

第十一　豌豆栽培法

附、早熟栽培

（一）豌豆栽培總說

豌豆は莢豌豆、軟種豌豆草と稱して其需要は頗る多く、古來よりこれが早熟栽培は講せられてゐる。有名なる栽培地としては、靜岡縣久能地方、廣島縣江田島等

である尙近年この栽培の有利なると且つ其風土の適當なるとより、伊豆國白濱村、千葉縣安房郡平郡村、神奈川縣三浦半島一帶に栽培する樣になつて來たが、未だ促成栽培は盛んでない。蓋し豌豆は溫床に於て促成栽培をする程の溫度を要せずして充分需要者を滿足せしめ得るからで、要するに豌豆は早熟栽培によるが利益である。

(二) 栽培法

其栽培法は早熟栽培總論を熟讀すれば自ら分明することであるから、こゝには重複をさける爲めに略する。もしそれ溫床に於て促成栽培をしよふとなれば、菜豆と同樣に取扱ひばよいのである。

次ぎに早熟栽培に適當なる播種及び採收の期日を示して置かう。

品種名	播種期	採收期
早生豌豆	八月下旬	十一月上旬より二月下旬迄

中生豌豆	九月下旬	十二月下旬より四月中旬迄

豌豆は最初、軟莢のまゝ市場に販出するもので大體四月上旬より下旬頃までを終りとする。五月に入つては軟豆として市場に出すべきものこの頃となると、相場は低落するものである。これ菜豆と同じく溫暖地方の露地栽培品が市場に現はれるからである。

以上記述した外に、促成栽培としても、早熟栽培としても又軟化栽培としても幾多の有望なる種類はあるが、何れも其方法は大同小異であつて、別段に記述する必要を認めないから本書にはこれを省略することにしたのであるが、もしそれ本書記述以外の種類を栽培せんとなれば、其總論を熟讀さるゝがよい。總論はこの意味を以て充分詳細に記述したのであるから、總論さへ熟讀したなら如何なる種類と雖も容易に栽培し得ると著者は信じ得るのである。元來普通なれば總論は全體に止め、各論を詳述すべきものであるが、大同小異の各論を幾回も重複して記

述するよりも、總論に於て充分なる説明をした方が相互の利益と信じかくは記述した次第である。

第十二　蔬菜抑制栽培法

（一）抑制栽培とは如何なるものか

抑制栽培といふのは、促成栽培の反對で、特別に植物の生育を抑制して、促成栽培品と反對の時期に販出する栽培である。何事にあれ其極端は一致するもので、抑成栽培も卽ち促成栽培であるのである。十二月に促成栽培を以て茄子を市場に販出する、一方には同時期に抑制栽培を以て市場に販出する、其結果は同じである。たゞ、其徑路、手段、方法を異にしたに過ぎぬのである。故に抑制栽培は需要者側から見ると促成栽培と毫も異る處はないのであるが、栽培者側に於ては全く反對の方面に進んで行つた栽培法であるのである。

要するに抑制栽培といふのは栽培の時期を後らせて、其生産を出來るだけ晩成せしむる方法である。故にこれを晩成栽培とも言ふて居る。

（二）抑栽栽培の利益

極端から極端に走らなければ甘い金儲けは出來ない辛い世の中で、甘い甘藷からは辛い燒酎が搾取出來る譯である。抑制栽培も卽ちそれで、極端な促成栽培の後ろに廻つて極端に晩成せしめて、早いものと同じにしようといふのであるから、一寸考へると六ヶ敷い樣に思はれるが實は甚だ簡單な栽培法であるから是非これを奬勵したいのである。こゝに抑制栽培の利益を擧げて着手の參考に供さう。

一、栽培甚だ容易なること、
二、農閑期を利用し得ること、
三、露地に於て出來ること、
四、費用を要せざること、

五、手數を要せざること、
六、閑地を利用出來ること、
七、土壤の分解に利あること、
八、自家用品の不足を補ひ得ること、
九、比較的高價なること、

數へ來れば、この他に利益として計上すべきものは澤山あるが其大なるものは大體右の如きものである。

この利益より見るも、抑制栽培は他の各種特殊の栽培に比して一頭地をぬいた進歩した方法と云ふことが出來るのである、以上これにつきて蛇足を加へて見よう。

一、栽培の甚だ容易なることは、促成栽培と異なり特別の設備を要せずして成し得るのみならず、其方法も普通露地栽培と異なる處がないから、少しでも農業の心得のあるものには誰れでも出來るのである。

二、抑制栽培は秋期より冬期にかけてなすべきものであるから、無爲にして終るべき冬期を有效に活用出來るのである。

三、促成栽培は特別なる設備と溫床等を用意して栽培せねばならぬのであるが、抑制栽培は普通栽培と同じく露地栽培で出來るのである。

四、五、收穫を早める爲めには餘分の手數も要するし、又費用もかゝるが、抑制栽培はこれが要らないのである。

六、麥作の空畑、水田等を利用して栽培が出來るから、特に栽培地として他作を防害する樣のことがなく出來るのである。

七、田地を利用すると、二毛作となるから勢ひ土壤の分解が出來る譯となる。

八、自家で使用する蔬菜を補ふことも出來ることは別に說明の要もあるまい。

九、其收穫品は促成品が珍重さるゝと同樣珍重さるゝものであるから、其價も比較的高價なものである。

(三) 抑制栽培の種類

抑制栽培をなすことの出來る蔬菜は少くないが、需要あつて初めて商品たる價値の生ずるものであるから需要のないものを栽培するといふのは愚なことである。今日抑制栽培品として需要のあるものは、胡瓜、茄子、菜豆等である。これ等は何れも相當高價を以て市場に販賣され而も珍重されてゐるのであるから大に栽培するがよいのである。殊に茄子の如きは、其何れの栽培品よりもこの抑制栽培品が美味であると稱されてゐるのである。以下この三種につきて栽培上の注意を述べて置かう。

(四) 菜豆栽培の注意

菜豆栽培は乾田利用をするがよいのである。豆類を田地に栽培することの土壤分解上有利なるは何人も認むることであるからこゝに説明する必要はあるまい。生育期間の甚だ短いものであるから、稻の刈取り後にこれを栽培することは一擧

兩得の策である。尤も次第に寒氣に向ふ時であるから、永くは無理であるが、溫暖なる地方であつたなら二回の播種は出來るのである。

其田地たると畑地たるを問はず、栽培すべき品種は、矮性を選ぶことが肝要である、これ降霜期に至り霜除けをなすにも又、自然の生育上にも伸大なるものより有利なる譯である。

一、適種、長鶉菜豆、名古屋蔓無、黑菜豆
　殊に黑菜豆を最適とする、

二、播種、九月上旬

三、假植、九月下旬

四、採收、十月中旬より十二月迄繼續

　附、この間に尙一回霜除けをなして栽培得るのであるが、かくする時には促成栽培にした方が却つて利益である。溫暖なる地方であれば、これより少し遲れ

てもよいから、結局二回は出來ることになる。

（五）胡瓜栽培上の注意

栽培の方法、管理の方法は露地栽培と異なることがないから省略するが、夏作と連作は避くべきことであるから、抑制栽培は別の場所を選ぶがよい。

一、播種、七月上旬より二週おきに一定の面積だけづゝ八月上旬まで約一ケ月間播種する、（四回）

二、本邦在來の苗床にて充分である。こゝに播種し第一回の假植後直ちに定植する、（二回三回の假植を除くのである）

三、採收期、九月上旬より十月上旬まで繼續する。

（六）茄子栽培上の注意

其栽培法、管理法は、露地栽培と少しも異る處がよい。元來茄子は普通栽培であつても、降霜期まで結實するものであるが、これは既に夏期中に充分採集したあと

であるから、ほんの殘り物に過ぎないのである。故に特に秋期より冬期にかけて採收するには新らしく栽培するの要がある。

一、播種期　六月中旬又は下旬

二、定植　七月中旬又は下旬

三、採收　八月上旬以降結氷期頃迄

茄子栽培の最後は殆ど明春に達することもある程（溫暖なる地方）であるから、かゝる場合には藁の如きものを以て日覆をするがよい。

（七）各種栽培上の注意

秋期未だ溫度の下昇して居る時は格別であるが、晩秋の候より初冬にかけては、よし降霜はなくとも、夜間は頗る寒冷となるものであるから、防寒用の設備をなすは勿論であるが、但し、促成栽培の如き嚴格なる方法を以てせずともよい。要は早熟栽培に要する、施設をそのまゝ、抑制栽培に應用すればよいのである。

以上記述したものゝ他に自家用とする場合は數多きものであるし、又土地によりては、これ以外のものにも多くの需要あるやも、計り知らぬことであるから、各自其風俗人情に鑑み、その嗜好に適合するものを栽培するがよいのである。

第五篇　結　論

以上記述した四つの栽培法は何れも余の實驗を基礎として書いたものであるが、書中先輩の高見を借り又は引用せる參考書も少くないから、全然余の實驗的研究ではないが、基礎を實驗においたことは事實である。故に余は實驗上よりしてこの四つの栽培法中、早熟栽培を切に奬勵したいのである。早熟栽培は一見其利、促成栽培、軟化栽培等に劣るかの如き感あるが、實際上の利益は確かにこの早熟栽培が第一である。

早熟栽培はたゞに利益あるのみでなく、其販路に於ても、又其時期に於ても、他の栽培品より確かに強い力を持つて居るのであるから、新事業としても何等顧慮することもなく出來得るのである。

早熟栽培に次いで初步の人の利益あるは軟化栽培である。これ又早熟栽培と同じ

く其販路と時期とが頗る廣く、失敗に終るが如きことは絶對にないからである。勿論、促成栽培と言ひ、抑制栽培と云ひ、他の栽培（普通の露地栽培）に比して大收益のあることは、其收支計算によりて明なる處であるが、要は其販出區域の需要如何と、生活程度如何を明知するによるものであるから、漫然、賣れるだらうのだらう主義を以て着手せず、必ず利益ある素地を得て後に着手するが最も安全なると同時に最も大なる收益の方法である。

今や我國々民生活は高潮に達してゐる。本書の讀者が全部全力を擧げてこの四つの栽培に從事しても其供給は夥多になる憂はないのである。が併しよく其地方の民俗を調査して實行するがよい。これ種類選擇上にも必要なる條件である。

畑地年六回利用收益法 終

畑地年六回利用收益法

定價金一圓七十錢

大正九年一月五日印刷
大正九年一月十日發行

著作權所有

著者 高田功

發行者 東京市京橋區南槇町十八番地 大倉廣三郎

印刷者 東京市麹町區有樂町一丁目二番地 吉原良三

發行所 東京市京橋區南槇町十八番地（振替東京四六八四 電話京橋二四六三） 廣文堂書店

（報文社印刷）

石田孫太郎先生著 菊判洋綴全一冊定價金一圓八十錢 送料金八錢

養蜂豐作法

松浦松次郎先生著 新形洋綴全一冊定價金八十錢 送料金八錢

金錢最大活用法

森破凡先生著 新形函入美本定價金一圓八十錢 送料金十二錢

開明三世相

中村俊治先生著 四六判洋綴全一冊定價金一圓五十錢 送料金十二錢

日用理科學の常識

高田功先生著 四六判洋綴全一冊定價金一圓七十錢 送料金八錢

畑地年六回利用收益法

農學士 齋藤容一先生著 四六判洋綴全一冊 定價金一圓七十錢 送料金八錢

宅地明地多く穫れて利用收益高く賣れる

風味のよい果實栽培法

高田功先生著 四六判洋綴全一冊定價金一圓七十錢 送料金八錢

金肥代用

新肥料製造法

高田功先生著 四六判洋綴全一冊定價金一圓五十錢 送料金八錢

山林三重利用收益法

長塚節先生著　四六判洋綴全一冊定價金一圓五十錢　送料金八錢
女竹若竹淡竹黑竹孟宗竹及び筍の**栽培**と**竹材製作販賣法**

高田功先生著　四六判洋綴全一冊定價金一圓七十錢　送料金八錢
鯉、うなぎ、あゆ、すつぽん、金魚、ぼらの**養殖**と**賣り方**

佐瀨文哉先生著　四六判洋綴全一冊定價金一圓七十錢　送料金八錢
有利高尚家庭副業　**和洋紙加工製作法**

佐瀨文哉著　四六判洋綴全一冊定價金一圓七十錢　送料金八錢
有利高尚家庭副業　**布加工製作法**

多田惠一先生著　新形洋綴全一冊定價金一圓二十錢　南洋全圖付送料金八錢
南洋渡航案内

長崎武先生著　新形洋綴全一冊定價金一圓二十錢　支那全圖付送料錢八錢
邦人の開拓すべき支那の大富源

酒卷鷗公先生著　新形洋綴全一冊定價金一圓二十錢　シベリア地圖付送料金八錢
富源開拓**シベリアの實情**

滿川龜太郎先生著　新形洋綴全一冊定價金一圓二十錢　南米地圖付送料金八錢
南米渡航移住案内

滿川龜太郎先生著　新形洋綴全一冊　定價金一圓二十錢　印度ビルマ地圖付　送料金八錢

印度及びビルマに發展せよ

長崎武先生著　新形洋綴全一冊　定價金一圓二十錢　滿蒙地圖付　送料金八錢

蒙滿富源開拓事業案内

酒卷鷗公先生著　新形洋綴全一冊　定價金一圓二十錢　メキシコ地圖付　送料金八錢

メキシコ移住事業案内

長崎武先生著　新形洋綴全一冊　定價金一圓二十錢　アラスカ、勘察加、沿海洲地圖付　送料金八錢

アラスカ、勘察加、沿海州渡航事業案内

東京帝國大學教授　文學博士　井上哲次郎先生著

人格と修養　三六判洋綴函入美本　定價金二圓五十錢　送料金十八錢

法學博士　浮田和民先生著

人格と品位　四六判洋綴函入美本　定價金二圓八十錢　送料金十八錢

海老名彈正先生著

人間の價値　四六判洋綴函入美本　定價金二圓八十錢　送料金十八錢

黑岩周六先生著

實行論　四六判洋綴函入美本　定價金一圓五十錢　送料金十二錢

東京帝國大學教授 文學博士 上田萬年先生著

史雄史談

四六判洋綴函入美本 定價金一圓八十錢 送料金十二錢

大町桂月先生著

美辭文範 **作文百科辭林**

四六判洋裝美本 定價金一圓七十錢 送料金十八錢

東京帝國大學教授 理學博士 横山又次郎先生著

世界に於ける **自然の奇觀**

菊判洋綴函入美本 定價金二圓 送料金十八錢

三澤力太郎先生著

人體の現象

菊判洋綴函入美本 定價金一圓五十錢 送料金十八錢

法學博士 中村進午先生著

蛙のはらわた

四六判洋綴函入美本 定價金一圓二十錢 送料金十二錢

文學士 樋口龍峽先生著

近代思想の解剖

四六判洋綴函入美本 定價金一圓八十錢 送料金十二錢

京都帝國大學教授 文學博士 高瀨武次郎先生著

王陽明詳傳

菊判洋綴函入美本 定價金二圓三十錢 送料金十八錢

理學士 松島種美先生著

生花投入 盛花切花 **永く保つ水揚秘法皆傳**

四六判洋綴函入美本 定價金二圓二十錢 送料金十八錢

大町桂月先生著
日用新手紙の文
新形洋綴函入美本
定價金一圓二十錢
送料金十二錢

酒井不二雄先生著
實用新書翰
三六判洋裝美本
定價金八十錢
送料金八錢

法學士水村五郎先生著
辯舌流暢 即席 滿場喝采
演說自由自在
新形洋綴美本
定價金八十錢
送料金八錢

新井佐市先生著
英語練習
の上達は斯の如くせよ
四六判洋綴美本
定價金二圓二十錢
送料金十二錢

186
194

終